

はじめに

私たちの暮らしを取り巻く環境は、公害、ごみ問題、緑の保全、さらには気候変動などの様々な課題を抱えています。環境は日々の社会・経済活動にも影響を与えており、私たちが安全で快適に生活していくためには、こうした課題を解決していくことが重要です。

江戸川区では、「環境をよくする運動」として、区民・事業者・区が一体となって、公害対策やまちの美化、犯罪抑止などに取り組んできました。この運動は「自分たちのまちは自分たちの手で」を合言葉に、現在まで受け継がれています。

また、区民と区が一体となった全区的な運動として、昭和45年から「緑化運動」を展開しています。「ゆたかな心 地にみどり」を合言葉に掲げ、半世紀にわたり、緑の確保に積極的に取り組んでいます。現在、区内には5箇所の親水公園と18路線の親水緑道、そして498箇所の公園が整備され、区民の暮らしに潤いと安らぎをもたらしています。これらの運動は地域コミュニティを形成する基盤となっており、本区の良き風土となっています。

近年、地球温暖化に伴う異常気象などが地球規模で進行しています。この状況を踏まえ、令和3年4月に都内で初めてとなる気候変動適応センターを設置するなど、気候変動への適応（適応策）と地球温暖化の要因である温室効果ガスの削減（緩和策）の両輪でしっかりと取り組んでいきます。

その一翼を担う認定NPO法人えどがわエコセンターでは、区民・事業者・行政との連携により「もったいない運動えどがわ」をはじめとして、地球温暖化防止・資源循環型社会づくり・自然環境の保全・環境教育などの取組みを推進しています。今後更に持続可能な地域社会を目指して、次世代に引き継ぐための環境づくりを進めています。

清掃事業が区に移管され24年目を迎えました。区民、事業者、区が一体となって清掃・リサイクル事業に取り組み、区民の中のごみ減量意識は確実に広がっています。令和4年3月には、ごみ減量・リサイクル施策をより一層推進し、誰もが安心して暮らせる共生社会の実現を目指すため、第2次Edogawaごみダイエットプランを策定しました。今後、食品ロスやプラスチックごみの削減など、ごみに関連する様々な課題に対して、SDGsの視点から積極的に取り組んでいきます。

江戸川区は「誰もが安心して自分らしく暮らせるまち」の実現に向けて、えどがわ環境財団とともにSDGs（持続可能な開発目標）に取り組んでいます。この目標は、経済・社会・環境の3つの側面のバランスがとれた社会を目指すものです。環境は社会・経済を支える土台であり、その達成にはすべての人が環境問題を「自分ごと」として捉え、解決に向けて協力していくことが大切です。この冊子を通じて身近な環境に関心を持っていただき、普段の暮らしの中で、よりよい環境づくりに取り組むきっかけにいただければ幸いです。